第68回

インタビュー vol.21

中国は無視できない国 市場と見るか、製造拠点と見るか

～安かろう悪かろうの中国はもう存在しないかもしれない～

勝井鋼業株式会社
代表取締役　小島　広臣 氏

鍛造品のブローカーだった会社から工作機械を導入し、加工部品メーカーとして成長を続けている勝井鋼業株式会社さん。小島社長は、2年前の秋に同友会に入会、その後支部の例会だけにとどまらず、さまざまな同友会の活動に参加するのが面白くなってきているとか。会員歴1年足らずで、訪中団に参加。今年度から幹事メンバーの一人としても活動をされています。そんな小島さんに、当研究会に入会された経緯や訪中団についてなどお聞きしました。

知り合いも全くいない訪中団に一人で参加

小島さんが、日中経済交流研究会や訪中団を知ったきっかけは、当会の副会長・坂元鋼材株式会社の坂元氏が、ある集まりで報告をしていたのを聞いたことがきっかけになったとか。「あの時は、苦労話などには慣れてきていたころだったので、坂元さんのお話は数字的な目標やその理由などが詳細かつ明確に語られていて、とても新鮮に思えました。それで、その坂元さんが勧める訪中団というものはどんなものか興味がわきまして、参加することにしました」と小島さん。

会社を留守にしたら社員が成長した

一度しか会ったことのない坂元氏に勧められ、誰も知り合いもなく、全く知らない国「中国」で、5日間（休日2日間含む）も連続して職場を離れるという体験をした小島さん。「僕しかしていなかったことを社員に覚えてもらうなど、職場を離れる準備をするということも自分なりに新鮮でした。結果、社員の成長にもつながりましたし、自分自身も会社を空けることができる自信にもつながって来年も行こうと思いました」

すべてが会員による手作りツアーだったということに驚く

「訪中団に参加して一番驚いたのは、訪問先から工場見学先の交渉、大学の日本語学科の生徒との文化交流など、すべて参加者である会員がコーディネートしているということでした。通常のように、旅行会社やどこかの団体が決めたコースをただ見て回るだけのツアーかなと思っていましたが、すべて訪中団の委員が企画し、食事の場所や現地のバスの手配、ホテルや通訳・ガイドの選定までよく考えられているので、本当にびっくりしました」

ひょっとしたら日本はすでに負けているものもあるのではないかと感じた

「工場見学では、大手の工場も見せていただいたのですが、一部ではオートメーションがすすんだ近代的な部分も持ちながらも、もう一方では膨大な量の人手を使って行っている作業もあり、そうしたものが混在しているところが印象的でした。しかし高度な技術や品質は、ものによってはすでに日本と同等、もしくはそれ以上のものもあるのではないか、安かろう悪かろうの時代はもう終わっているのではないかという面も感じられ、そうしたことが直にこの眼で見られたことはとても良かったと思います。行く前から、販売先としても考えておかないといけない『無視できない国』だという認識を持ってこの訪中団に参加させていただいたので、入会間もない時期でしたが、参加させていただいてよかったと思っています」

現在、本社横に新工場も建設中ということで、会社組織の変革にも取り組む小島さん、今後新しい展開を考える上でも中国の動きは見ておきたいということでした。ありがとうございました。

取材・文　日中経済交流研究会　広報委員